

大学日本語コース用漢字教材作成・使用の試み
DEVELOPMENT OF “KANJI LISTS” FOR UNIVERSITY JFL COURSES

矢吹ソウ典子・犬塚久美子，ヨーク大学
Noriko Yabuki-Soh, Kumiko Inutsuka, York University

1. はじめに

非漢字圏地域において外国語として日本語を学ぶ場合、漢字の習得は学習者にとって大きな課題である。文化審議会答申は2136字を改定常用漢字と定めているが、大学教育の限られた期間にこれだけの数の漢字を導入するのはほぼ不可能であり、どれだけの数をどのように取り入れるかが問題となる。

川口さ（2010）はヨーロッパの漢字教育を調査した結果、日本語を主専攻にしている機関では大学3年時までに1000から1500字の習得を目指していると報告している。しかし漢字を学ぶ上で重要なのは一つずつの字のみでなく、漢字を組み合わせて造られる語彙、すなわち漢字語である。漢字と漢字語を合わせると、学習者が覚えるべき語彙数が1500をゆうに超えることは想像に難くない。川口よ（2010）は「漢字と漢字語は膨大な数があり、そのすべてを学ぶことは不可能であり、また不必要である。学習者個人にとっては、自分が必要とし、覚えて「意味のある（meaningful）」漢字を覚えればいい」（p. 7）と主張している。また、徳弘（2008）は高頻度の漢字の造語性を調査した結果、約1000以降の漢字では造語性が大きく下がることを示した。以上の結果を鑑み、筆者らの所属する大学の日本語科では、1000字程度の漢字を学習しておけばその後日本語学習を継続していく上での基礎となる漢字知識が習得できることを期待して、合計1000字の漢字導入を目標に、大学生用の漢字教材の開発に取り組むことにした。これは昨年より着手した中級レベルで導入する新漢字教材の作成と使用についての実践報告である。

2. 新漢字教材作成の背景

2. 1 漢字教材に関する先行研究と作成目標

当大学の日本語コースでは、これまでJP1000（一年生）でプログラム独自のオンライン教材を用いて漢字110字を導入し、JP2000（二年生）以降は市販の漢字の教科書 *Japanese Kanji and Kana* (Hadamitzky & Spahn, 2012) を自習用教材として使用した上、習熟度を毎週漢字単語の小テストで評価していた。例えばJP2000では、週ごとに20字（および各字につき4～5個ずつの関連単語）を導入し、一年間に合計400字の新出漢字を学習するようにスケジュールを組んでいた。しかし、川口さ（2010）が「いくら漢字を勉強しても教科書で習った語彙の表記に結びつかないようでは学習動機も維持できない」（p. 116）と指摘するとおり、それまで順調に進んできた学習者が、JP2000の段階で使用する読み物などには直接結びつかない膨大な数の漢字語を習得することができず、その負担がもとで日本語の学習を続けること自体を挫折してしまうケースも見られるような実情であった。そこで、個々の漢字学習だけでなく、学習者の学習動機を促すような「使える」漢字語彙の習得により焦点を合わせた新漢字教材の開発を目指す

こととした。漢字学習の先行研究でも言われるように、「中・上級の学習者にとっては、新しい漢字の習得もさることながら、漢字語彙を増やし、その正しい用法を身につけることも非常に重要です。しかし、従来の漢字教材はもっぱら漢字が個々の学習の中心で、語彙についてはいくつか示すだけであったり、学習者にはあまり重要でない語が提示されたりしていました。」（西口・河野 1994: p. 7）といった考察に同意するものである。

以上の理由から当日本語科では、徳弘（2008）の調査結果に基き JP3000（三年生）のコース終了時まで合計 1000 字の漢字を導入することを目標に、市販の漢字教科書に代わる漢字教材の開発を開始した。これまで使用してきた副教材 *Japanese Kanji and Kana* (Hadamitzky & Spahn, 2012) では、長所として、個々の漢字を主に部首ごとに紹介してあるので類似の形のをまとめて覚えやすいことなどがあり、短所として、文例がないため実際の使用例が分かりにくく、学習者の語彙力の増加につなげられるかが不明であることなどが挙げられる。これらの長所と短所を念頭においた上、今回は JP1000 で導入された基本漢字 110 字に積み重ねる形で JP2000 用の 400 字の漢字を新たに選んだ上、それぞれの読み・意味・用例等を表にしたリストを作成し、漢字の導入・練習に用いた。今回作成した新教材では、学習者全員に同じ漢字や漢字語を提示しすべてを覚えさせるのではなく、基礎的な漢字の知識を身につけた後、それぞれが必要とする漢字を自立的に学習できるように手助けすることを一つの目標としている。今後は教材作成の過程や使用した結果をもとに、新教材のさらなる改善を図るものである。

3. 新漢字教材の作成

3. 1 新出漢字の選択基準と選択方法

JP2000 で導入する 400 字の漢字の選択基準として、特に①一般使用頻度が高いもの、②造語性のあるもの、③名詞に加え基本的な動詞・形容詞に使われるもの、④基本的な部首を含むもの、⑤大学生が日常のことがらを理解・表現するのに最低限必要と思われるものが幅広く選択されているかを考慮した。

400 字の漢字の選択方法としては、次の手順を踏んで行なった。まず、文化審議会による「漢字出現頻度表」の「新聞」「ウェブ」「凸版」のそれぞれから JP1000 で導入される 110 字を除く上位からの 400 字プラス数十字を頻度順に並べ替え、三つに共通する漢字を頻度数の高い順から選んでいく。次に、これらの漢字がすべて日本語能力試験旧 4～2 級レベルの漢字に含まれているか確認し、含まれていない漢字は取り分けておく。これらの作業を上記の①～⑤の選択基準を念頭に複数のインストラクターが個々に行い、最終的に共通して選ばれたものから順に採用する。

表 1 は、これまで使用した市販の副教材で JP2000 の漢字として導入していたが、今回の新教材ではそれらの代わりに優先して導入した漢字の、①～⑤の選択基準における数例である。

表1 旧・新漢字教材での漢字・漢字語選択の比較

	旧教材で提示されていた漢字	新教材の類似語もしくは同時期に提示された漢字
①使用頻度	塞、闇、湾	寒、暗、港
②造語性のあるもの	掌（合掌、車掌）	象（象、気象、対象）
③名詞だけでなく動詞や形容詞としても使えるもの	悲（悲観）	悲（悲観する、悲観的）
④基本的な部首を含むもの	興、旬、丁	流、都、病
⑤大学生の日常生活に必要な語彙	極、熊、韻、介	専、攻、卒、期

3. 2 新出漢字の導入順序とリストの形式

400字が選出されたあと、週ごとに20字ずつ導入する漢字の全体の配列順序を決定した。その方法として、全体的に画数の少ないものから多いものに移行していく一方、導入時でのJP2000の読み物に関連があるものを念頭に配列した。また、(1)の例に示すような漢字はなるべくまとめて配列した。

- (1) 同じ部首が含まれているもの（例：門・問）
 構成部分に連続性のあるもの（例：重・動・働）
 意味的に関連のあるもの（例：春・夏・秋・冬）
 熟語を構成するもの（例：専・門）

漢字リストの形式としては、一字についての情報（音読み・訓読み、意味、画数など）を簡潔に紹介し、用例の単語と短い例文を紹介した。単語と例文は、①『改定常用漢字表』（平成22年、文化審議会答申）の漢字例、②*A Frequency Dictionary of Japanese* (Tono et. al, 2013) の例文、③漢字導入時のJP2000の読み物、④インターネットでの使用例の検索などを参考に、インストラクターが数人で評価・修正し合いながら考案・作成した。こうしてできあがった各週に導入する20字の各漢字リストを、他のコース教材と共にオンラインで学習者がアクセスできるようにした。図1はこれまで使用した教科書の「歌」の漢字の例、図2は新教材の同漢字の例である。


	395	KA, <i>uta</i> – poem, song <i>uta(u)</i> – sing	
	4j10.2 田	歌手 <i>kashu</i> singer	57
	大 田 一	国歌 <i>kokka</i> national anthem	40
	/49 24 14	和歌 <i>waka</i> 31-syllable Japanese poem	124
	歌 詞	短歌 <i>tanka</i> (synonym for waka)	215
		流行歌 <i>ryūkōka</i> popular song	247, 68

図1 Japanese Kanji and Kana (Hadamitzky & Spahn, 2012) の一例

# 501	カ うた、うた (う)	画数	部首	構成要素
歌	歌	14	あくび	可+可+欠→歌
	歌			
Core words	歌を歌う うたをうたう 歌手 かしゅ	sing a song singer		
Useful words	国歌 こっか 和歌 わか	national anthem 31-syllable Japanese poem		
例文	姉は素人の歌手ですが、歌の素質があると思います。	My sister is an amateur singer, but I think she has a natural aptitude for singing.		
例文	父は最近和歌を詠(よ)むことにしています。	My father is recently into composing waka poems.		

図 2 新教材の一例

新教材としての漢字リストで工夫を加えた点は、まず紹介する漢字のフォントを教科書体を含めて3種類にしたことである。これは、学習者が手書きでその漢字を産出する際教科書体が最も参考になり誤りを避けることができるため、また、違った種類のフォントが使われている場合でも学習者が同じ漢字を認識できるようにするためである。それぞれの漢字の読みは、現在の JP1000 の漢字教材に従い、音読みはカタカナ、訓読みはひらがなで表記した。漢字の構成要素も分かり易いように提示した。単語の用例は使用頻度や異なる読み方を考慮して3~4個を選び、“Core words”と“Useful words”として紹介してある。従来の教科書では一つの漢字につきほとんど5つの単語の用例が紹介され、その中には一般使用頻度が極端に低いと思われるもの(例:「権」の用例に「三権分立」、「段」の用例に「段々畑」など)があったが、新教材では、吟味して選出した数例を「必ず覚える単語」(“Core words”)と「知っているのが望ましい単語」(“Useful words”)の二段階にし、学習者がそれぞれのニーズに応じて学習しやすいように配慮した。また、使用頻度が高く JP2000 のレベルで役に立つと思われる漢字語は、その漢字の導入時点で未出のものを含んでいても、ふりがなをつけて紹介することとした(例:心「心配(する)」・思「思案(する)」)。

4. 新漢字教材使用の結果

4. 1 漢字小テスト

JP2000 では、毎週漢字の小テストを行なってきた。前の週に紹介された漢字の単語の中から20問、ひらがなで表されたものをそれぞれ漢字で書き、英語で意味を添える問題である。図3は、新漢字教材が導入される前の年(2012-2013、市販の教科書使用 n=38)と導入された後の年(2013-2014 新教材使用 n=41)における20回の小テストの全体の平均点を比較したものである。

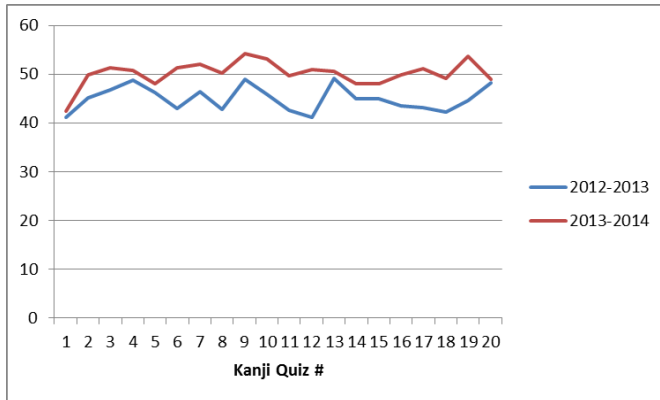


図3 漢字小テスト平均点の比較

結果として、同様の形式で行なった60点満点の漢字の小テストの全体の平均点は、新漢字教材を導入した後の年が、新教材を導入する前の年をすべての回で上回ったことが分かった。テストで問われた漢字が異なっているため一概には比較できないものの、新教材導入後の高得点の結果を見る限り、新教材で選択された漢字や例として挙げられた語彙が学習者にはより受け入れ易くなっていたため、点を取り易いものになったように思われる。今後さらなる観察と分析が必要ではあるものの、新教材が学習者の漢字学習を促進できるものである可能性が示されたと考えたい。

4. 2 新教材に対する学習者の反応

新教材に対する学習者の反応を検証するため、学年度が終了した時点で、JP2000を履修している学習者を対象にアンケートを行った。表2はアンケートの設問内容である。アンケートはムードル上に掲載し、学習者が個々で自由に回答し書き込みができるようにした。内容としては、学習者の普段の漢字学習の様子を聞くとともに、今回の教材に関する感想を1から5の選択肢から選ぶリッカート尺度を用いた設問、教材に対する反応を自由に文章で書き込ませる欄を設けた。履修していた学習者41名のうち、24名から回答を得た。以下にその結果をまとめる。

表2 アンケート設問

1. Have you had much exposure to Kanji in your first or home language?

Please indicate how you feel about each question on a scale of 1 (extremely dissatisfied) to 5 (extremely satisfied). Use 6 for not applicable to your situation.

2. How would you rate (your satisfaction with) the order of presentation of the 400 characters (e.g., easier and less strokes to more difficult and more strokes; related characters introduced together, etc.)?
3. How would you rate (your satisfaction with) the organization (e.g., Each character presented in different fonts, number of strokes, core words, useful words, and exemplar sentences)?
4. How would you rate (your satisfaction with) the content of each Kanji list?

Please indicate how you feel about each statement on a scale of 1 (strongly disagree) to 5 (strongly agree). Use 6 for not applicable to your situation.

5. It was difficult to study Kanji in JP2000 because the Kanji presented did not relate to the reading materials.
6. It was difficult to study Kanji in JP2000 because there are not enough examples presented.
7. It was difficult to study Kanji in JP2000 because of how the Kanji were presented.
8. It was difficult to study Kanji in JP2000 because there are more to memorize
9. Features of the Kanji Lists that you liked (feel free to comment)
10. Features of the Kanji Lists that you did not like (feel free to comment)

図4は学習者の言語的背景に関する設問1 (“Have you had much exposure to Kanji in your first or home language?”) に対する回答をまとめたものである。今回の回答者の約半数以上である14名の学習者が、普段の生活では漢字に触れることが全くないことが判明した。残りは程度の差はあるものの、日常生活の中でなんらかの漢字への接触があることが分かった。すなわち回答者の半数以上は母語を通して漢字を知っている層ではなく、日本語の履修を通して初めて漢字を学んでいる学習者であると考えられる。

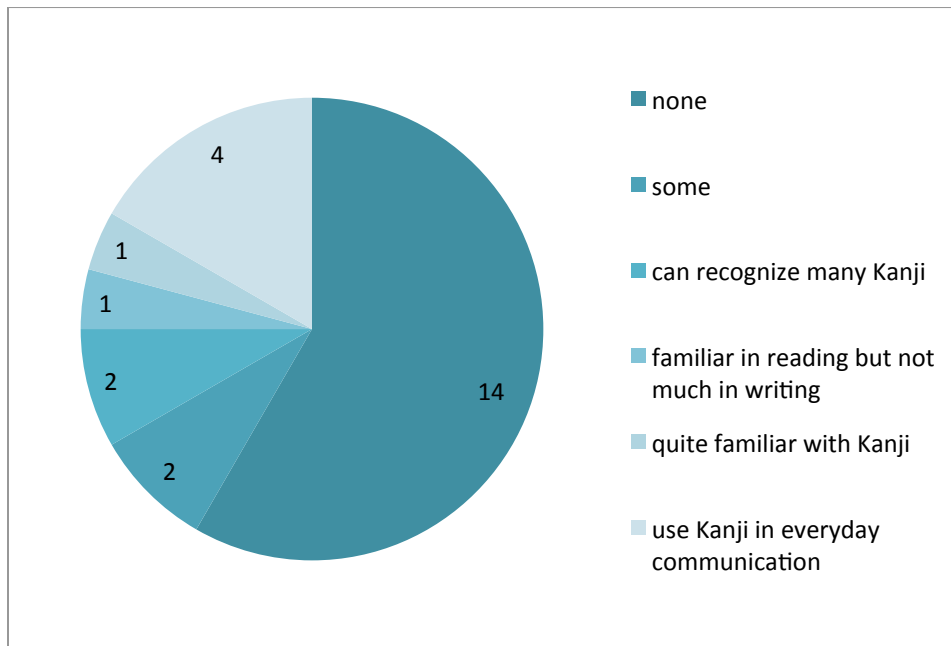


図4 学習者の第一言語・家庭での言語を通しての漢字への接触 (回答数 24)

次に、図5は教材に対する学習者の反応(設問2~4 “How would you rate (your satisfaction with)...” への回答)をまとめたものである。無回答のものは分析からはずしてある。アンケート結果を見る限り、学習者は全般的に新教材を好意的に受け止めていることがわかる。導入順序・構成・内容の三点に関しては、どの項

目にも大部分 (“somewhat satisfied” から “extremely satisfied” を選んだ回答の数は順に 21 名、20 名、22 名) の学習者が肯定的な反応を示しており、教材に対して否定的な意見を持つ学習者は順に 3 名、4 名、1 名とごく少数であった。

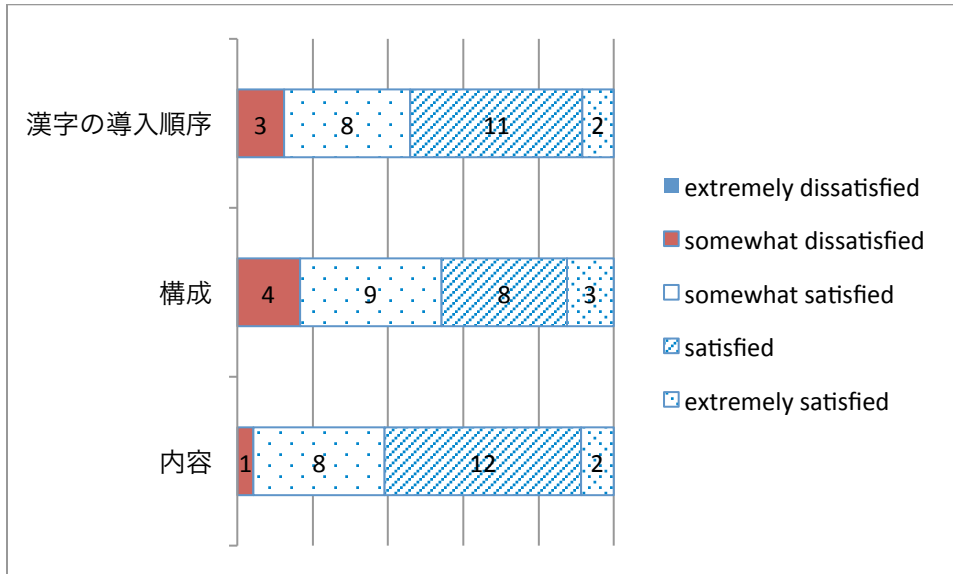


図 5 新教材への満足度を問う設問への回答 (回答数 24)

図 6 は設問 5~8 (“It was difficult to study Kanji in JP2000 because...”) の回答をまとめたものである。ここでは学習者が漢字学習の上で何が困難と感じているかが明らかになっている。設問 5 では提示された漢字と読み教材に関連がないことで漢字学習が難しいと答えた学習者が全体の 7 名で、漢字と読み教材が乖離していることを問題視している学習者が少なくないようである。上記に述べたとおり、この漢字リストを作成するにあたって、読解教材との関連もなるべく明らかになるように、週に提出される 20 字のうちのいくつかの単語は読み教材に出てくる語彙を重ねるよう配慮したのではあるが、学習者にはそれがはっきり伝わらなかったことも判明した。毎回読み教材で使われている語彙がそのまま漢字リストに掲載されていたわけではなかったため、新出の漢字・漢字語の数の多さで、いくつか重複していた語彙には学習者は気がつかなかったと考えられる。

設問 6 で問われた例の数に関しては不十分であると感じた学習者は 4 名にとどまり、それほど問題になっている様子はないようである。また設問 7 で問われた漢字の提示の仕方に関しても、漢字の提示の仕方が困難の原因であると答えているのは 3 名のみであることから、教材全般としての構成や内容等への好意的な反応を裏付けている。

ただし学ぶべき漢字の量については、設問 8 (“there are more to memorize”) に同意している学習者が 15 名に上ることからわかるように、JP1000 との比較において、JP2000 では毎週 20 字の漢字とそれに関連する漢字語を学ぶことが負担になっていると思われる学習者が大多数である。個々のリストには類似の部首を持つ漢字が多くあること等を導入時に指摘し、それまでの知識を使って積み重ねて

いける漢字学習の方法を明示すること、漢字と読み教材との関連をよりわかりやすく提示することで、学習者が感じる漢字の総学習字数の多さを軽減していくことが必要であると思われる。

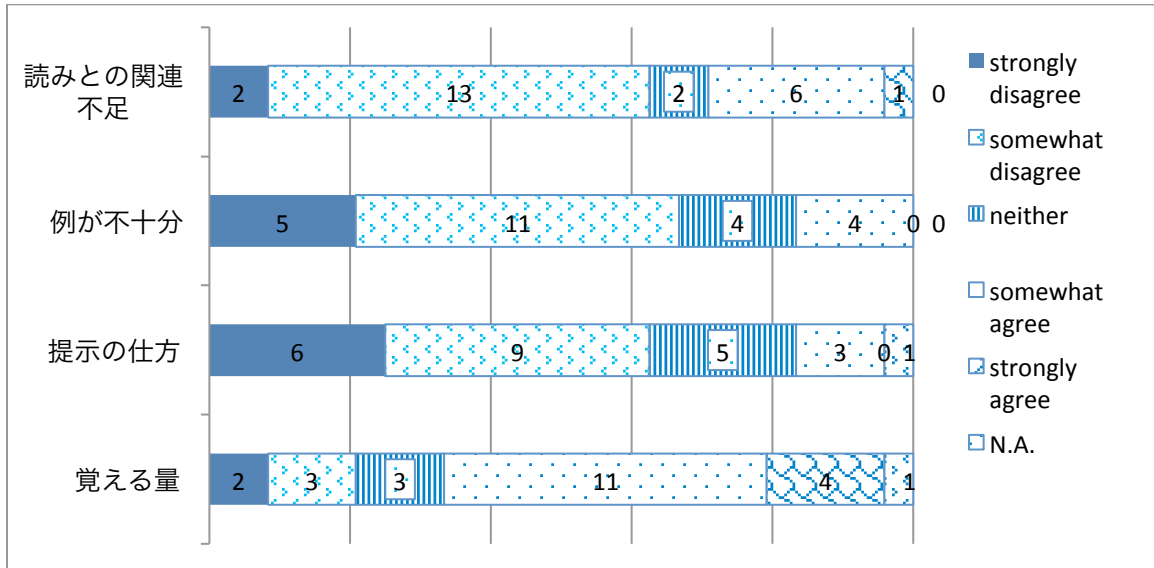


図6 漢字学習の困難の原因を問う設問への回答（回答数 24）

自由回答（設問9, 10）の内容を見ると、学習者がこの教材で特に評価している点・改善を望む点により明らかになった。導入順序に関しては順番が容易なものから複雑なものへと移っていることがいいという評価や、一回の提示につきさまざまな種類の単語が紹介されていることがよかったという声があった。また新教材で新たに加えた例文が役立ったという感想が多く見られた。（2）はこれらの回答からの抜粋である。

- (2) “I like how the lists were mixed up with some difficult, some familiar and some easy words.”
 “from easy to hard, having good organization, some of the kanjis are related in the same quiz, which is good for memorization.”
 “The example sentences were great. It shows us the various ways in which the Kanji character/word can be used.”
 “I liked the sample sentences”
 “Sentences using the Kanji were useful.”

(3) に示すように、今後の更なる改善のための要望としてあがってきたのは、漢字と読解教材の関連である。本学では読解教材とは独立する形で漢字の導入を進めているが、教材とのつながりを望む声が聞かれた。また、漢字教材はすべてコンピュータを使ってタイプされた形式であったため、手書きの漢字とは異なり、また書き順が分かりづらいという意見があった。

- (3) “I hope it would be better if we learn Kanji from a text based content instead of learning it separately.”
 “Typed version was very different from written version.”
 “It would be better if there is a picture that shows how the character is written, maybe with hand writings from different people (men, women, kids, etc.) which can show how they are actually written by Japanese people.”
 “Typed v.s. Handwritten”
 “Hopefully with a step by step stroke order diagram.”

他に、例として提出した単語や例文は評価しているものの、単語の選択に関してもっと違うものを選んでほしいという要望もあった。そして、例として挙げられている語彙の数が多すぎるという声もあった。(4)はそれらの回答例である。

- (4) “I think 3-4 words for each Kanji is enough. 4-5 is too many.”
 “Remove them and focus on more useful and practical words.”
 “More recent daily usage Kanjis”
 “Some core words/useful words that I don’t feel I will ever use.”
 “presenting more useful expressions would be better.”
 “I don’t think words like 国内総生産 is very practical and words like that just make everything more difficult since it doesn’t really relate to anything we’ve learned in class.”

以上のように、自由回答では全般的に新教材そのものは評価しているものの、さらなる項目の追加(書き順や手書きでの漢字)を要望している声、そして語彙の数や選択基準により大学生の視点を配慮したものを望む声が多く聞かれた。

5. まとめと今後の課題

今回の新漢字教材作成の取り組みを振り返り、その結果として学習者の漢字の習熟度を見た場合、毎週の単語テストの結果の比較だけから言えば、今年度の方が昨年度に比べ平均点が高く、新教材で導入された漢字の選択等が学習者の漢字学習により効果的であったことを示唆している。学習者の反応を直接検証したアンケート結果によると、学習者はおおむね好意的に新しい漢字教材を受け入れていることがわかった。漢字リストの構成や導入順に加え、特に漢字の使用例の提示に対する評価がよかった。しかし、授業や課題に即して読み教材の一助となるべく配列された漢字語に関しては、そのことに気がつき有効に利用できた学習者はほとんどいなかったことが判明した。また例としてあげた語彙に関しても、より身近に感じられる語彙の選択が望まれていることが分かった。さらに、学習者は漢字を手書きにするにあたってのより詳細な情報(書き順や、コンピュータ・フォントのみでない手書きでの漢字表示)を求めていることが分かった。全般的に学習者は、より身近に感じられる語彙の選択や読解教材との関連、書き順のわかりやすい提示が望んでいることが明らかになった。学習者が自分たちの漢字習熟の一助となったと満足できる教材にするには、更なる改善が必要である。

具体的な課題の一つとして、現在は漢字を数種類の異なるフォントで提示しているだけであるが、動画等を使った書き順アニメを加えたり、インタラクティブに漢字の学習を促進できる練習問題を加えるなど、テクノロジーを使った漢字リストのより充実化をはかっていきたい。それに加え、漢字の成り立ちの簡単な説明、音読み・訓読み・部首で個々の漢字を検索できる索引、新教材に合わせた自習用の漢字練習問題等の作成の必要がある。各漢字また漢字から産出される単語の情報（品詞等）をどこまで提示するかといった点も検討していきたい課題である。今回のアンケートで例文が非常に役に立ったという意見が多かったが、漢字学習を語彙だけにとどめるのではなく、その後の産出につなげていくためにも品詞情報等をなるべく提供しておくのが望ましいと考えられる。また、例として提示する語彙もインストラクターだけが選ぶのではなく、学習者が個々のニーズに基づいて自分たちの視点を加えられる方向を模索していきたい。今回、学習者の漢字習熟度の測定は小テストの結果を使用した。小テストは学習者が各漢字を単語として理解し産出できるかを測ったのみで、単語レベルでの知識のみしか検証できていない。漢字学習を通して学んだ語彙がその後読み教材の理解、もしくは作文等での産出に転移しているかは依然不明であり、今後ぜひ検証すべき課題である。また、学習者の漢字能力の検証は昨年度の学習者との小テストでの比較のみにとどまっているが、今回の漢字の選択がその他の評価基準（例：日本語能力試験）との比較において有用かどうかも今後さらに詳細に検討する必要がある。

今後はオンラインの自習教材としての漢字リストのさらなる改善と充実化を目指し、学習者の漢字習得の定着化をはかるものである。

参考文献

- 岡崎正道（1993）「日本語教育における漢字指導のあり方」 *Artes Liberales*, 52, 11-28.
- 川口さち子（2010）「クラスの進度に沿った自主作成漢字教材の漢字提出の方法—パリ第7大学の Kanji Du Manuel について」 *Proceedings of the 17th Princeton Japanese Pedagogy Forum*, 115-131.
- 川口義一（2010）「漢字の新しい教え方：記憶、意味、方法」 *Proceedings of the 17th Princeton Japanese Pedagogy Forum*, 1-14.
- 徳弘康代（2008）『日本語学習者のためのよく使う順 漢字 2100』三省堂
- 西口光一・河野玉姫（1994）『Kanji in Context. 中・上級者のための漢字と語彙 Reference Book』ジャパントイムズ
- 文化審議会答申（2010）『改定常用漢字』
http://www.bunka.go.jp/bunkashingikai/soukai/pdf/kaitei_kanji_toushin.pdf
- Hadamitzky, W. and Spahn, M. (2012). *Japanese Kanji and Kana: A Complete Guide to the Japanese Writing System*. Tokyo: Tuttle
- Tono, Y., Yamazaki, M. and Maekawa, K. (2013). *A Frequency Dictionary of Japanese*. London: Routledge